



非核兵器地帯とは

特定の地域において核兵器を排除する国際法上の制度のことで、次の3つの重要な要素が含まれます。

1. 核兵器の製造、取得、配備などを禁止します。
2. 核兵器国が地域の非核保有国に対し、核兵器使用・威嚇・攻撃を行わない「消極的安全保証(NSA)」を約束します。
3. 条約の遵守を検証し、問題が生じた際に協議する機能を持ちます。

これまでに、南極、宇宙、海底をはじめ、世界の5つの地域——ラテンアメリカ、南太平洋、東南アジア、アフリカ、中央アジア——にて条約が結ばれており、110カ国以上が参加し、南半球の陸地はほぼすべてが非核兵器地帯となっています。南極大陸は一種の非核兵器地帯です。また、モンゴルは、「一国非核兵器地位」を国連で認知させています。

地帯を他の地域にも広げていく努力も継続しています。中東については、1995年のNPT再検討・延長会議において「中東決議」が採択され、核兵器のみならず、化学、生物兵器も存在しない「非大量破壊兵器地帯」の設立が目指されています。

①ラテンアメリカおよびカリブ地域における核兵器禁止条約(トラテロルコ条約)

- 締結署名：1967年2月14日
- 発効：1968年4月22日
- 締約国：33カ国(全関係国)
- 核兵器国の反応：5核兵器国がNSAを明記した議定書IIIに署名、批准済

②南太平洋非核地帯条約(ラロトンガ条約)

- 署名締結：1985年8月6日
- 発効：1986年12月11日
- 締約国：13カ国・地域
- 核兵器国の反応：米国以外の4カ国がNSAを明記した議定書2に署名、批准済。米国は署名済だが未批准。

③東南アジア非核兵器地帯条約(バンコク条約)

- 締結署名：1995年12月15日
- 発効：1997年3月27日
- 締約国：10カ国(全関係国)
- 核兵器国の反応：5核兵器国すべてがNSAを明記した議定書に未署名、未批准。

④アフリカ非核兵器地帯条約(ペリンダバ条約)

- 締結署名：1996年4月11日
- 発効：2009年7月15日
- 締約国：51カ国が署名、40カ国が批准
- 核兵器国の反応：米国以外の4カ国がNSAを明記した議定書IIIに署名、批准済。米国は署名済だが未批准。

⑤中央アジア非核兵器地帯条約(CANWFZ)

- 締結署名：2006年9月8日
- 発効：2009年3月21日
- 締約国：5カ国(全関係国)
- 核兵器国の反応：米国以外の4カ国がNSAを明記した議定書に署名、批准済。米国は署名済だが未批准。

⑥モンゴル非核兵器地位

- 1998年12月4日、国連総会議決で一国非核兵器地位を認知
- 2000年2月3日、国内法制定

⑦南極条約

- 締結署名：1959年12月1日
- 発効：1961年6月23日
- 締約国：5核兵器国を含む54カ国

北朝鮮核問題 外交の扉が開いた

1990年代初頭の第一次核危機以降、北朝鮮核問題の解決を探る外交努力が続けられてきました。しかし同国と西側諸国との根深い不信を乗り越えるには至らず、2017年には米国と北朝鮮の間で戦争の一手前までという状況にまで悪化しました。

ところが、2018年に入り、北朝鮮をめぐる情勢は大きく転換しました。2018年4月27日、北朝鮮の金正恩労働党委員長と韓国の文在寅大統領が首脳会談を行い、歴史的な「板門店宣言」を発表しました。続いて6月12日には、トランプ大統領と金委員長との間で、史上初となる米朝首脳会談がシンガポールで開催され、朝鮮半島の完全な非核化や北朝鮮の体制保証などを明記した共同宣言が署名されました。

しかし、2度目の米朝首脳会談（2019年2月27、28日、ベトナム）は成果を生み出せずに終了しました。6月30日には3度目となる会談が韓国と北朝鮮の軍事境界線がある「非武装地帯（DMZ）」で行われましたが、今後の道のりは不透明なままです。

南北朝鮮、および米国と北朝鮮の関係が改善し、対話の流れが生まれた好機を活かさなければなりません。この地をふたたび不信と対立の負のサイクルに陥らせることなく、「朝鮮半島の完全な非核化」を実現させる鍵が、北東アジアの非核化と持続的な平和と安全保障の実現を目指した「北東アジア非核兵器地帯（NEA-NWFZ）と包括的アプローチ」です。

北朝鮮核開発年表

1985年12月	核不拡散条約(NPT)に非核兵器国として加入
1991年12月	「朝鮮半島の非核化に関する共同宣言」署名
1994年10月	米朝「枠組み合意」署名
2003年 1月	NPT脱退を表明
8月	第1回6か国協議開催
2005年 9月	6か国協議初の共同声明採択
2006年10月	初の地下核爆発実験(推定1キロトン)
2009年 5月	2回目の地下核爆発実験(推定2-6キロトン)
2013年 2月	3回目の地下核爆発実験(推定15キロトン)
2016年 1月	4回目の地下核爆発実験(推定15-20キロトン)
9月	5回目の地下核爆発実験(推定20-25キロトン)
2017年 7月	大陸間弾道ミサイル(ICBM)発射に成功
9月	6回目の核実験(推定140-250キロトン)